

Department of Education alumni association

あすなろ

2023 No.45



発行
弘前大学教育学部同窓会
葛西恒雄

所在地 青森県弘前市文京町1
TEL 0172(39)3314 (学部)



青森県の次世代教育への挑戦

教育学部長 福島裕敏

同窓会の皆様におかれましては、平素より教育学部の教育研究活動への多大なるご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症が五類に移行したことにより、これまで規制されていた様々な活動が再開され、大学のキャンパスでも学生たちの生き生きとした姿がみられるようになりました。また、教育学部同窓会と教育学部との懇談会も四年ぶりに対面で行われ、活発な情報交換を行うことができました。あらためて、人との直接的な関わりの大切さを実感した一年でした。

さて、令和五年七月、教育学部附属次世代ウェルビーイング研究センター（以下、センター）が発足しました。このセンターは、文部科学省の組織整備事業によるもので、令和九年度まで措置されることになっており、新たに助教二名が着任いたしました。また今後、は全学のセンターになる予定です。センターでは、超人口減少地域

教育学部長 福島裕敏

における限界状況を想定した次世代教育を開発し、教育を基軸とした超人口減少地域における子ども・教師・社会のウェルビーイングの向上へのSDGsの実現を目指しています。第四期教育基本振興計画においても、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」と「持続可能な社会の創り手の育成」とが謳われているところです。そこでは、「ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人ののみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である」とされています。

青森県は国内有数の超人口減少地域であり、未曾有の様々な問題に直面することが予想されます。子どもや教師を取り巻く環境についても例外ではなく、教育の目標・評価、内容・方法を含めて、十年

後、二十年後の状況を想定した「青森県の次世代教育への挑戦」を始める必要があります。そのため、センターでは、地域の詳細な調査を通じた実態把握と、地域に蓄積されてきた教育実践記録の収集・分析をもとに、子ども・教師に向けた教育プログラムを開発し、地域との連携を通じてその普及を図っていくようとしています。

今年度は、西津軽地区（つがる市、鱒ヶ沢町、深浦町）を対象とした調査を展開しているところです。調査実施に際しては、元々つがる市・西郡支部長の七戸完三郎



会長就任の挨拶

同窓会会長 葛西恒雄
(昭和53年卒業)



先生に特任教授として尽力いただいております。今後、事業の展開に際して、同窓会の皆様のお力をお借りすることもあるかと思いますが、ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

センターの概要等については、QRコードによりご覧下さい。

令和5年度の総会において教育学部同窓会の会長に選任されました葛西恒雄と申します。教員を退職した当時、教育学部同窓会の会長は木村清之助先生で私が中学校3年間英語を教わった恩師であり、同じ町内に住まいしていました。退職したとたん同窓会の仕事を手伝ってほしいと言われ、最初はいろいろ理由をつけて断っていました。が断り切れず同窓会事務局の仕事に関わるようになって早16年が過ぎようとしています。

この間、同窓会長は3人が変わりました。学部長さんは3人、事務長さんは4人が交代されました。ずいぶん長く事務局に関わり、学部の変遷を目にしてきまし

た。学部の組織も変わりました。教職大学院ができた現職からの入学ができるようになりました。2年間最新の学問を学び、それを現場に帰ってから教職員へ伝えていくとのこと。就職支援室ができて退職教員が学生に面接対策や現場が求めていることなどを丁寧に指導しているのです。学部の入学定員が230人から160人に減員されました。時代の要請から生涯学習過程が作られ多くの卒業生が社会へ出ていきましたがそれも廃止され、先生方も少なくなり寂しい思いをしました。未だ収束していないコロナ禍により普通の学生生活を送ることなく卒業した学生もいました。とても残念なこと

です。

教育学部の校舎は昭和38年頃までは弘前公園の中の現在「ピクニック広場」と呼ばれている場所にありました。平成14年頃、その跡地に高さ2メートルくらいの八重紅しだれという種類の桜を記念樹として弘前市長、教育学部長、同窓会長が植樹した様です。現在6メートルくらい大きくなりました。見事な桜を咲かせております。公園緑地課の皆さんのお世話のおかげです。感謝、感謝です。桜祭り等で公園に出かける機会があります。たは是非観てほしいと思います。

弘前大学同窓会は平成11年6月に各学部同窓会をまとめた形で結成され、さらに仮称「校愛会」に変わろうとしています。各学部同窓会はそのまま残りますが活動の形態は変わっていくものと考えられます。教育学部同窓会は活動の形態がどのように変化するのかがはつきりするまで引き続き弘前大学同窓会には参加しますが「校愛会」には参加を保留しています。

教育学部同窓会は昭和40年前後に創設されたようですが当時は校長先生方が会長を勤め役員も事務局も現職教員が担っていました。活気があったと聞いています。若返りを図り活気ある同窓会にしていきたいと思しますので、よろしくお願いいたします。





未知のオンガクをつくる 音楽教育とウエルビーイング

弘前大学教育学部教授
次世代ウエルビーイング研究センター長

今田 匡彦

2023年7月、教育学部に次世代ウエルビーイング研究センターが設立されました。

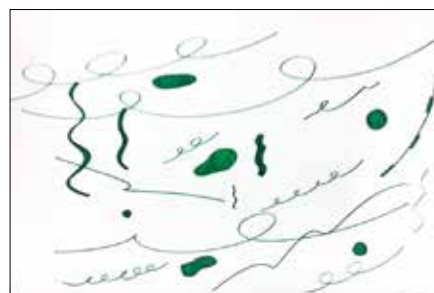
ウエルビーイングは、半世紀以上も昔、WHO憲章の前文にて最初に使われました。“Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.”健康とは、精神も身体、それを支える社会も良い状態にあることで、単に疾病や病弱が無ければ良いということではない、と。つまり「精神、身体、社会が良い状態になること」がウエルビーイングということらしいのですが、最近流行りのSDGsでは“good health and well-being”（健康と福祉）とされたりもしています。



ピアノの内部奏法

この新しいセンターに託されたのは、超人口減少地域の、子ども、教師、社会のウエルビーイングを実現することです。地域性への再帰とは「システム」ではなく「生活空間」を重要視することです。「システム」はスターバックス的でマニュアルが優先され、匿名的であり、入替を可能とする構造です。これを私の専門である音楽教育学に置き換えると、日本全国どこでも使用可能な既成の歌唱教材や鑑賞教材をマニュアル的に授業に流し込む制度となります。子どもたちは極めて匿名的な存在となり、どのクラス、異なる学年でも、ある程度同じ結果が期待される、つまり、入替が可能となります。しかし、「生活空間」にある近所の喫茶店ではこのようにはなりません。マニュアルではなく店主の善意、腕前、そして自発性が優先され、客の顔を見ている、つまり入替不可能なのです。これを、音楽教育に置き換えると、既成の楽曲を使わずに、子どもたち自身が自らのオンガクをつくっていくこととなります。ここで重要な役割を果たすのが、青森県の音環境です。居住地区や季節などによってさまざまなに変化するサウンドスケープを子どもたちが体験することにより、例えばそこから図形楽譜が生まれたりします。子どもたち

ちは図形楽譜を活用し、身近な素材や声によって自分たち独自のオンガクをつくることができます。



中学生による図形楽譜

令和元年、縁あって附属小学校に勤務することとなりました。学生時代には教育実習生として、また三十年ほど前には教員として附属小学校には大変お世話になりましたので、これを恩返しのため多く考え、日々過ごして参りました。ここ数年は感染症防止のため多くの教育活動に制限がかりました。子ども達のためにやりたいことができない、もどかしい。でも、子どもは日々成長していきます。感染症の様子をにらみながらできることから少しずつ歩みを進めてきました。そんな附属小学校の最近の様子を紹介します。まずは「一人一台タブレット」。三年前の年度末に全校児童数分のタブレットが学校に届きました。



今日もパワフル！附属小

附属小学校 校長 高橋 眞弓

山積みになったタブレットの箱を眺めながらどこから手をつけようかと途方に暮れました。荷ほどきし、液晶画面に保護シートを貼り付けて動作設定作業。幸いなことに大学から学生アルバイトの紹介があり、おかげさまで全児童に配る準備ができました。次は使わせ方です。タブレットに詳しい先生もまだ少なく、互いに教え合い協力し合っとうにか子どもにも使わせるところまでこぎ着けました。それが三年前。ところが今は、先生方は授業にも情報共有にも活用するのが当たり前、子どもも、プレゼンをする、ゲームを作る、友だちと交流する等、大人顔負けの使い方ができるようになりました。自分の必要な時にタブレットをす

いすいと使いこなす姿が学校中で見られ、驚くばかりです。

次は「特別支援教室」開設。令和三年度に開設された「特別支援教室」には数名のスタッフがいて困り感のある子どもへの支援を行っています。朝、玄関で子ども一人一人に声をかけたり励ましたりして教室へと向かわせます。また、授業中はスタッフが校内を巡回して元気のない子や学級になじみにくい子、不登校傾向のある子などに寄り添い、支援を行っています。先生方や保護者が気軽に相談できる場所にもなっており、訪問者が絶えることはありません。



そして「働き方改革」。附属小学校で働き方改革は難しいと悩みましたが最近では随分変わりました。まず、一年間の変形労働制がスタートして勤務時間管理がしつかりとされるようになりました。また、行事や業務については何度も話し合いを重ね、子どもを伸ばすことを第一に考えて精選し、削減を図り

ました。
 コロナ禍を経ても附属小学校は元気で、今後も地域に貢献する学校として何事にも前向きに取り組んでいきたいものです。そして



あこがれの教員になって
 青森市立泉川小学校 教諭 山田 小雪
 (学校教育員養成課程 令和五年三月卒)

「どんな子どもたちが待っているのだろう」はじめて自分の受け持つ子どもたちと顔を合わせた日のことを今でも鮮明に覚えています。期待を胸に教室に入ると、ピョンと背筋を伸ばし、キラキラ目を輝かせたみんなが「先生、これからよろしくお願いします!」と元氣よく挨拶をしてくれました。
 学校での日々は初めてのことがかりであつという間に過ぎていきました。だんだん慣れてくると、「もつと子どもが楽しめる授業をしたい」「もつと居心地のよい学級にしたい」という思いが強くなりました。
 授業は、「あおもりしメソッド」を取り入れながら、子どもたちが「できた!分かった!」という楽しさの中に達成感を感じられるように考えています。
 社会科学の学習では、近所のスーパーマーケットに行つて撮影した写真や動画を教材として使用し、「売り場のひみつ」について学習しました。写真や動画を見てひみつを探し、ワークシートやJam boardに書き込みながら活発に話し合いをしていました。子どもたち

「大人も子どももなんか楽しそうな学校だね」そんなふうにならる学校になつたらいいなと勝手に夢を膨らませていきます。

ちは「これからお店に行くときは勉強したことが本当か探してみたい」と、実生活と結び付けながら意欲的に活動に取り組んでいました。
 また、国語科の「たから島のぼうけん」の学習では、自分で考えて物語を書く活動をしました。最初は普通の原稿用紙に書かせようと考えていましたが、「せっかくなら、物語を書くなら、作家になりきつて楽しめるようにしたい」と思い、表紙は自由にタイトルや作家名を書けるようにし、裏表紙は出版社名や印刷会社などを記載し、本に見立てたワークシートを用意しました。子どもたちは、最初のうちは物語を書くことに乗り気ではありませんが、書き始めてからは「次の時間も続きをやりたい!」「早くみんなに読ませたい!」と生き生きと楽しんで活動をしていました。少しの工夫で子どもたち



の意欲がグッと高まることを実感しました。「先生の授業が楽しくて勉強が好きになつたよ」と子どもが伝えてくれたときは本当にうれしかったです。
 しかし、子どもたちは一人一人みんな違います。必要とする支援は様々で、子どもを理解し、支援していくことにおいて困難を感じるときもあります。「この子にはどうやって指導していけばよいのだろう」と悩んだときは、諸先輩の先生から助言を受け、保護者と話し合い、その子の教育的ニーズに合った支援ができるように心がけています。
 始まつたばかりの教員人生ですが、努力するほど大きく返ってくるやりのある仕事だと感じます。これから出会うたくさんの子どものために、今後も学ぶ姿勢を忘れずに、精進していきたいと思ひます。

**■既卒者■のための
 教員採用試験対策週間
 のご案内**

既卒者を対象として、主に2次試験対策を実施します。積極的にご参加ください! お申し込み、お待ちしております!

日程: 2024年7月29日(月)~8月2日(金)
 ①11:05~11:50 ②13:25~14:10
 ③14:20~15:05 ④15:05~15:50
 ⑤16:00~16:45

対象者: 弘前大学卒業生・修了生
内容: 主に2次試験対策
 ①小論文の添削 ②自己PR ③個人面接・集団面接
 ④集団討論 ⑤模擬授業 ⑥場面指導

場所: 弘前大学教育学部2階 教職支援室
担当: 教職キャリア支援コーディネーター
 山田 真寿美先生 (ky-sien5@hirosaki-u.ac.jp)
 葛西 裕幸先生 (hi-kasai@hirosaki-u.ac.jp)
 工藤 美代子先生 (miyo-kudoh345@hirosaki-u.ac.jp)
 佐藤 忠浩先生 (sato-chu3387@hirosaki-u.ac.jp)

申込: 弘前大学教育学部教職支援室 0172-39-3423
 または、上記の各先生方のメールアドレスまで

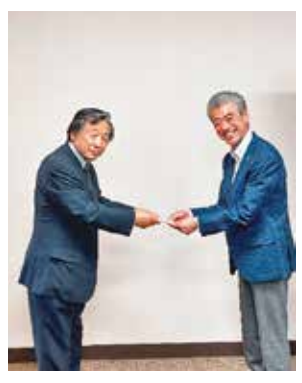
- ・小論文添削希望者は、事前にメールに添付の形で送信ください。
- ・身近な講師にもお伝えください。
- ・様々なご要望に適宜対応いたします。

注目: 上記期間以外でも指導いたします。ご連絡ください。

■主催: 弘前大学教育学部教職支援室・就職支援委員会
 ■後援: 弘前大学教育学部同窓会

令和五年度の同窓会の活動

☆教育学部同窓会総会
 詳細については第四面にてお知らせしますが、役員改選では相馬正栄会長の引退表明により、新会長に葛西恒雄副会長が就任することになりました。



☆教育学部へ支援金贈呈
 六月二十七日午後二時より、教育学部長室において葛西会長、福島事務局長の二人で訪問し、五十

万円の支援金を贈呈して頂きました。福島裕敏学部長からは学生に有効活用をしますというお言葉を頂きました。
 ☆教育学部懇談会



総会同様に三年ぶりとなる教育学部の学部長、教授、事務長等の関係職員と教育学部同窓会役員、会員との懇談会が十月三十日午後四時から約一時間半に掛けて行われました。
 懇談会では、教育学部長が教育学部の現状等をパワーポイントで説明し、その後あらかじめ教育学部へ対する質問事項に回答をして頂き、自由質問という順で行われました。自由質問の中で学部長が話された「超人口減少地域における限界状況を想定した次世代教育開発実装事業」としての次世代ウェルビーイング研究センターへの質問は大変興味を引くものでした。



令和4年度決算

Table with 4 columns: 項目, 令和4年度予算, 令和4年度決算, 備考. Rows include 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure).

Table with 4 columns: 項目, 令和4年度予算, 令和4年度決算, 備考. Rows include 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure).

Summary table with 3 columns: 収入, 支出, 残額. Values: 1,581,407, 1,259,435, 321,972.

残額321,972円は次年度へ繰り越します。

令和5年度予算

Table with 4 columns: 項目, 令和4年度予算, 令和5年度予算, 備考. Rows include 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure).

Table with 4 columns: 項目, 令和4年度予算, 令和5年度予算, 備考. Rows include 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure).

令和5年度 弘前大学教育学部同窓会 定時総会報告. 新型コロナウイルス感染症の影響により令和二年より中断されていた総会が六月三日午後二時から開催されました。

令和5年度事業計画

- 1. 5年3月中旬 同窓会入会依頼文書・振替用紙送付(学部から入学者全員に発送)。
- 2. 5年3月23日 弘前大学同窓会報を各支部、顧問、役員等に発送。
- 3. 5年4月5日 弘前大学入学式へ会長出席予定。
- 4. 5年4月8日 令和5年度会計監査会、評議員会・事務局合同会議(10人出席)。

*新入会員の礼状は振り込み次第発送。

令和4年度 庶務報告

- 1. 4年3月中旬 同窓会入会依頼文書・振替用紙送付(学部から入学者全員に発送)。
- 2. 4年3月28日 弘前大学同窓会報第23号を各支部に発送。顧問、役員は4月上旬に発送。
- 3. 4年4月10日 令和4年度会計監査会、評議員会・事務局合同会議(中止、総会中止の確定)。

令和4年度特別基金報告

Table with 3 columns: 収入, 支出, 残金. Rows include 前年度からの繰り越し, 利息, 計, 一般会計へ繰り入れ, 計.

残金は各銀行へ再度定期として預金する。

令和5年度役員

- 1. 支 部 長 黒石・平川・南郡支部 黒石・平川・南郡支部 黒石・平川・南郡支部
- 2. 支 部 長 五所川原・北郡支部 五所川原・北郡支部 五所川原・北郡支部
- 3. 支 部 長 つがる・西郡支部 つがる・西郡支部 つがる・西郡支部

★ 弘前大学同窓会・校愛会について 昨年度より弘前大学同窓会を校愛会と称し統一したいという大学側の要望がありましたが、教育学部同窓会総会を経て教育学部同窓会としては時期尚早ということで当面見合わせる事となりました。

同窓会の情報や会報のバックナンバーは、弘前大学同窓会HP→教育学部同窓会HPから。

https://www.hirosaki-u.ac.jp/information/ alumni.html

弘前大学同窓会

検索

